

第5回葛飾区都市計画マスタープラン策定委員会

日時：令和4年12月22日（木） 10:00～12:00

場所：男女平等推進センター1F 洋室D

出席：佐野委員（委員長）、轟委員、谷澤委員、中村委員、吉田委員、杉本委員、泉山(省)委員

（WEB参加：加藤委員（副委員長）、郷田委員、阿部委員、泉山(墨)委員）

（欠席：青木委員、矢部委員）

事務局：都市計画課 目黒課長、原田係長、山本、兵頭

傍聴：2名

議事：

開会

委員長：ただいまから、第5回葛飾区都市計画マスタープラン策定委員会を開会します。最初に事務局より連絡事項があればお願いします。

事務局：はじめに、委員の出席状況について、委員の過半数の出席という定足数を満たしていることを報告します。配布資料に不足がある場合はお申し出ください。

（課長 事務連絡、リモート参加委員の紹介、傍聴者2名の入室）

1 議事

（1）報告事項

- ・第4回策定委員会における主な意見について（資料3）
- ・全体構想等案について（資料4）
- ・地域別構想案について（資料5～6）

■質疑応答

委員長：議事に入る前に、本日リモートでご出席の委員が、このあと大学の講義を控えていますので、事務局説明の前ではありませんが、事前にお渡ししていた本日の資料はご一読いただいているということですので、このタイミングで恐縮ですが、何かお気付きの点などあればお願いします。

委員：ご説明の前に意見をということなので、簡単に申し上げます。本日の議題にある主に3つのことについてですが、前回の策定委員会での意見に対する全体構想の修正が最初にあります。そちらに関しては、建物の耐震化を、ぜひこういった全体構想の中、あるいは地域別構想の中に積極的に盛り込んだほうが良いのではないかとということで、主に沿道の話に特化しているようではありましたが、盛り込んでいただいたということで修正を確認しています。これで良いのではないかと思います。

全体構想等案については、かなり全体的にブラッシュアップされていて、前回指摘をしたような図版や写真などの体裁をきちんと整えていただきたいということと、絵を葛飾らしいものにもう少し変えていただくというお話について、そういうものがきちんと少しずつ訂正されていて、良いのではないかと思います。1点だけ、まちづくりの目標と理想像を絵にしている、結構目立つp.31からの部分があります。これは、5つのまちづくりの目標の絵があって、そのあとに理想像という形で大きな絵があって、多分合わせ技で全体の理想像を示している位置付けだと思いますが、やはり項目がまちづくりの目標というところに、4枚というかももう少したくさんの詳細な目標が具体的な絵になって

いて、そのあとに3で理想像が1枚の絵になっていると、項目が変わっていて、合わせ技に見えないような気がします。心配しているのは、3の後ろの大きな絵だけが、理想像として一人歩きしてしまうのではないかという懸念が、この本の構成上されるのではないかと思いました。もし、ご検討いただけるようであれば、この理想像と言っているところの全体の像は、まちづくりの目標の各部のいろいろなものが出てきたあとに、そのまま続けて盛り込んだほうが、誤解がないのではないかと思います。本当は全部1枚に仕上げられるといいのですが、入らないということだと思ってしまうので、そこは注意されたほうがいいのではないかと、という細かい意見です。

本日の議題の地域別構想案については、これから議論が始まっていくということで、何となくぱつと見た感じでは、アンケートを盛り込んでいただくことはとても良いと思いますが、アンケートのまとめ方がばらばらと、何々地域は…、何々地域は…、というように、全地域をコメントするのであれば、そのコメントの部分を表などにしたほうが分かりやすいのではないかと思います。

それから、各地域別構想の中の建物に関する、先ほどの耐震化みたいな話は、ぜひ、この地域別構想の中にも盛り込んでいただきたいと思いました。

あとは、各地域でイメージ図や現状の計画案が出てきますが、イメージ図はインパクトがあります。幾つかのところでは気になったので、本当に地域のイメージになっているのだろうか、といった絵にならないよう、注意して描いていただくことをご検討いただけるといいと思います。

事務局（課長）：まず1点目は、p. 33、34に全体のイメージ図について、その前のp. 31、32の絵とページが分かれてしまい、セットで見るのが伝わらないのではないかと、ということで、そのあたりを懸念して、前のページのまちづくりの目標の（1）～（5）の絵がどこに入っているか分かるように、左上に見取図みたいなものを入れてあります。もう少し、全部セットでご理解いただけるような注意書きとか、そこがまだまだ伝わらない状況かと思えますので少し工夫していきます。

委員：すごくシンプルに「3 理想像」と、ここからタイトルが付いている辺りが少し気になった、という感じなので、できる範囲でご対応いただければと思います。

事務局（課長）：あと、何々地域は…、という表現については、地域別構想のp. 7、8のアンケートのグラフの中に、下に書かれている内容が一目で分かるように、該当箇所を赤く四角で囲んで表示していますが、下の書きぶりが長い文章になっているところが分かりにくいのではないかと思いますので、個条書きにするなど見やすくなるよう、もう少し考えていきたいと思っています。

建物の耐震化については、例えば地域危険度の高い地域や密集市街地を抱えている地域については、特に耐震化や不燃化ということで、地域別構想でも、各地域の防災まちづくりの方針に記載させていただいていますので、こちらをご確認いただければと思います。

また、各地域のイメージ図については、まだブラッシュアップできると思っていますので、いろいろとアドバイスいただければ、工夫していきたいと考えています。

委員：ありがとうございました。

委員長：それでは、改めて、議事（1）報告事項について事務局より説明をお願いします。

（課長 資料1～6を説明）

委員長：資料4では、前回の策定委員会での意見や庁内調整結果を踏まえた全体構想等案について説明があり、まちづくりの目標と理想像について完成したイラストの提示がありました。全体構想等案に

については、前回意見の反映状況をご確認いただいて、いったん取りまとめとし、次回からは地域別構想案とセットにした都市マス素案として、全体を通した整合を図りながらブラッシュアップしていきたいと考えています。

また、資料5、資料6では、地域別勉強会から提案された地域別構想案について調整を加えたものと、そこに至るまでの検討過程や調整のプロセス等について説明がありました。今回は5回目となりますが、策定委員会において地域別構想案の検討は初めてですので、この地域別構想案の検討に少し時間をとりたいと考えています。地域別ともなると、土地勘や各地域の雰囲気の詳細まではなかなか分からない部分もあるかと思えます。その辺りは、事務局をはじめ地元関係団体代表の委員、行政委員もいますので、適宜それらの委員の方々にお聞きしながら検討を進めていければと思います。

それでは、まず全体構想等案について、前回のご意見の反映状況等について、お気付きの点があれば、ご意見を頂きたいと思えます。これについては、先ほど申し上げましたように、全体構想等案のあと地域別構想案についてやっていきたいと思っていますので、全体構想等案については、今回はできるだけ早めに意見を集約していきたいところです。そういうことで、まず全体構想等案について、お気付きの点等ありましたらご意見を頂きたいと思えます。

委員：適宜、私の意見も含めて、委員の皆様の意見を反映していただいたと思っています。特に私から申し上げた、カーボンニュートラルなどの大前提といったところをしっかりと書き込んでいただいたと思えます。

大変細かくて恐縮ですが、直していただいた p.37 の下の図で、「都心方面」とか「千葉方面」と入れていただいて、こういうことでいいのですが、少し意図として、上の図の東京都心との関係での「広域」という言葉と、下の図の中にある「広域拠点」の、この「広域」という言葉が若干重なってくるところが気になっています。この文章の一番上の、①の1行目に「広域レベル」とあるので、下で「広域」と出てくると勘違いしてしまうのではないかと、という感じもするので、ここは、もしかしたら「都市拠点」とか「交通都市拠点」などとするのかもしれないですが、そういう言葉をご検討いただければと思います。

もう1点は、これまで意見を述べていなかったのですが、今日伺っていて気になったことがあります。防災のところの、例えば p.51 に「大規模水害発生時の強靱化」のように、「強靱化」という言葉を入れてもいいのではないかと思いました。言葉を入れる、入れないについてはどちらでも結構ですが、災害時インフラ機能の強靱化として、電気と通信は非常に重要で、通信も電気がないと、途絶えてしまいます。そういう意味で、再生可能エネルギーの施設というのは、実は災害時にネットワークが途絶えることなく供給でき、災害時のエネルギー供給としても再生可能エネルギーは重要なので、そのようなことをこの辺りか、あるいは p.53 の一番上に「上下水道・電気・ガス・通信等のライフライン施設」とあるので、このところに再生可能エネルギーのようなものを災害時にも活用するという文言が入っているといいのではないかと聞いていました。以上、2点です。

事務局（課長）：1点目の、「広域拠点」の話と「広域レベル」という言葉がどうしてもかぶってしまって、少し分かりにくくなっているのではないかと、というご指摘について、まず、「広域拠点」という名称も変えにくい部分があつて、p.37 の1行目の「広域レベルの」というところも、都のほうの計画から持ってきていますので、どういう形になるか分かりませんが、少し工夫していきたいと思えます。

もう1点の「再生可能エネルギー」については、まさにおっしゃるとおりだと思いますので、「防災

まちづくりの方針」の中に、その点について言葉を少しちりばめていければと考えています。

委員長：そのほか、いかがでしょうか。全体構想等案についてはよろしいでしょうか。副委員長、お願いします。

副委員長：4点あります。1点目は、p. 33の未来の理想像の絵についてです。だいぶ良くなったと思いつつも、まだ密度が低い気がしました。

それから、葛飾の特徴として、工業系の土地利用もそれなりに未来も残るような気がしていますが、それが全く無いというのは、改めて見るとやや不思議な感じがします。

また、右の図に、まちなかで水をためる窪地がありますが、これは、中流にある遊水池みたいなものとは少し役割が違うような気がするので、誤解がないようにしておいたほうがいいのではないのでしょうか。葛飾区の場合、ある意味、島みたいな形になっているので、葛飾区内に降った雨をポンプで排出できない場合に備えて一時的に溜めておくという、流域治水で言う、下流の街を守るために、ここで溜めるもの、とは少し違うことが分かるような表現にするといいと思いました。

次は、p. 81の水と緑のところは十分書かれているという気はしつつ、これは以前からも話していますが、河川の水面利用をもう少し積極的に位置付けたほうがいいのではないのでしょうか。河川の水面利用ができるような状態をつくることで、まちの価値を生み出すというか、まちの魅力を生み出していくというようなことが書かれているといいと思います。併せて、前のマスタープランの表紙は、空から見た七曲りの格好いい写真だったので、その写真もぜひどこかに付けていただくといいと思いました。

3点目は、交通のところの自転車空間の確保について、p. 77あたりに、自転車の通行環境の整備で自転車を使いやすくするとあります。葛飾は自転車のまちなので、それはぜひやっていただきたいのですが、具体的に通行区間をどう整備していくのかが見えないので、もしイメージがあれば教えてください。都心のほうは自動車交通量がだいぶ減ってきているので、減った分、そのスペースを自転車に提供するというのは理解しやすいけれども、葛飾の場合、具体的に何をつぶして自転車通行空間を確保していくのかが若干理解しにくいのでお願いしたいです。

最後、4点目は「エリアマネジメント」というキーワードがたくさん出てきていますが、このエリアマネジメントはいったい何のためにやるのかということ、もう少し全体構想の中で解説しておいたほうが、あとあと読みやすいのではないかという気がしました。私なりの解釈だと、まちの空間の陳腐化を防ぐというか、エリアマネジメント活動があることで、現在も未来もその先も、まちの魅力とか価値が維持されて、まち自体が陳腐化していかないという、そういう意味合いがあると理解していますが、そのことが伝わるように、どこかで説明か解説をしておいたほうがいいのではないかと思います。

事務局（課長）：まず1点目の、p. 33の建物の密度については、密度を増やしてきましたが、もう少しということで、すみません、もう少しと思われる所は、どの辺りになりますでしょうか。

副委員長：戸建ての所だと思います。計算したわけではないので分からないですが、実際の市街地と比べて見て、この理想像を実現しようと思うと、今の戸建ての住宅地の敷地をだいぶ集約して2倍くらいにしないと、こういう家は建たないような気がします。そこを少しチェックしていただいて、あまり現実と乖離がないようにした方がいいのではないかと思います。イラストとはいえ、1軒の敷地の面積がどれくらいあるのかを少しチェックしていただければと思います。

事務局（課長）：どういう形で入れ込めるか分からないですが、もう少し密度を増やせるような工夫をしていきたいと思います。あと、工業系の土地利用が少し見えないというお話がありましたが、p. 34の下に引き出しで書かせていただいたところです。

副委員長：ありました。失礼しました。

事務局（課長）：あと、「降雨時に雨水を一時的に貯留・浸透させる窪地」については、副委員長がおっしゃったとおり、例えば、流域治水の考え方のような、下流のための機能というイメージではなく、下水道のポンプ能力以上に雨が降った時の一時的な雨の貯留をイメージしています。これは、例えば雨上がりに雨水がゆっくり浸透していく光景を楽しめるといえるか、そういう将来もあってもいいのかなということで、そういう自然環境の機能を体験したり、学習できる施設をイメージしていますので、そのイメージが伝わるような文言、表現を考えていければと思います。

次の水面利用については、以前、委員からご意見を頂きましたので、p. 65の一番上のポツの4行目に、「水辺・水面などの公共空間を活用した『賑わいづくり』』という形で記載させていただきました。

七曲りの写真については、小さいですが、p. 40の「河川・水辺のネットワーク」に掲載しています。

副委員長：承知しました。

事務局（課長）：続いて、p. 77の自転車の関係について、葛飾区では、自転車空間の確保は、都市計画道路の整備にあたって、基本的には道路幅員によって自転車専用の通行空間の確保を進めています。

また、既存の道路については、今年2月に策定の葛飾区自転車活用推進計画の中に自転車ネットワーク計画があり、これに基づいて整備の優先度を踏まえて、自転車が通行しやすい道路環境づくりのために、現道の幅員や通行の状況を見ながら、自転車専用通行帯、矢羽根型のナビマークを順次整備している状況です。そのことがこの文章の中で分かるように、言葉を加えたいと思います。

最後、エリアマネジメントについては、p. 64に、一言で「地域の価値を維持・向上させるため」ということで目的は少し書かせていただいています。が、「エリアマネジメントって何なの？」というところをもう少し分かりやすく、例えばコラムを作るとか、そういった形で特に取り上げて説明するようにしたいと考えています。

委員長：そのほか、ご質問、ご意見等ありますか。委員、お願いします。

委員：私は区民でもあります。p. 103から「実現化方策」が書いてあって、文章的にはよくできていますが、区民一人一人が認識しなければいけないと思います。どうすれば46万人の区民に行き渡るだろうか。今の形だと、ただこれを配って、読んでもらって、「ああ、計画はこういうふうになるんだ」と思われるだけで、手を挙げて動くことはまずないだろうと思っています。

私は自治町会に入っていて、今250くらいの町会がありますが、そういう組織を使って町会に触れ回っていくのか。ただ、昨日も会議があって議論しましたが、町会は加入率が悪くなっていて、50～60%の間を行ったり来たりしています。それを見ると、町会一本やりで区民全員に伝わっていくのかというと、これも伝わりにくい。どうすればいいのか。誰かがリーダーになって引っ張っていくしかないのですが、仕事を持っている人もいるし、私のようにフリーの高齢者もいます。そこをどのようにしていくか。このp. 103の「役割分担」の「区民の役割」の文章だけでは、何にもないまま終わってしまうと思います。何か組織立てる、例えば協議会をつくるのか、どうなのか。今は幸いにして、19地区にきっちりと分けられていて組織もある程度できているから、そこに紐づく別の組織をつくるというようなことを少しご検討いただければと思います。そうでないと、区民任せにしていたのでは

全くこの計画は動かないと思います。

事業者も同じです。事業というのは利益を追求していくわけだから、どうしても利益追求型でいくだろうし、個人は自分が住みやすい形につくっていくだろうから、そこは具現化しないと、また行政に一任してしまうような感じがするので、少し組織だってお考えいただければと思っています。

あとは、エリアマネジメントはもう既にやっているところが、実際にどういう組織でどういう形で運営されていくのか、全く私には理解できていないので、成功している事例があれば教えていただきたいと思います。

事務局（課長）：1点目の実現化方策は、今、この都市計画マスタープランを作った上で、配って終わりではなく、p. 105、106を見ていただきますと「都市計画マスタープランのPR」ということで、町会の組織も当然あるとは思いますが加入率という課題もあります。その中では、個人情報端末の活用やSNSの活用、また、小さいころから学校教育の中でもまちづくりに触れていただくことはとても大事だと思いますので、そういう取組を進めていきたいと考えています。p. 106の上では「④顔が見える広報活動」ということで、作って終わりではなく、まちづくりの状況や取組の状況を区民の方々にも共有していただき、同じ方向性を向いて街に取り組めるようにということ、これを作った先についても考えているところです。

さらに、組織のお話もありましたが、街づくり組織については、p. 104の上に書かせていただいたのですが、葛飾区には「区民参加による街づくり推進条例」があって、そちらで地域活動を行ってきたいというところについては、活動団体を組織化していただき、区が支援をしていくという制度があります。今後、都市マスを作った後は、この支援制度の拡充も視野に入れながら、エリアマネジメントや地域活動をさらに促進していきたいと思っています。なお、民間事業者については、区の条例や要綱などそれぞれありますので、そういうところで多少コントロールできると思います。そういう手法を使いながら、まちづくりもコントロールできればと思っています。

最後、エリアマネジメントについては、区の中でエリアマネジメントが成功した事例はなく、まだ検討段階というところがありますので、都市マスの中でコラムとして取り上げるにしても、ほかの自治体での成功事例などを取り上げながら紹介したいと思っています。

委員長：よろしいでしょうか。では、ほかに。委員、お願いします。

委員：エリアマネジメントのところは、私も同様のことを思っています。意義や取組の事例を少し解説しないと、区民の方は理解できないと思いました。併せて葛飾区の場合は、ひばりが丘など住宅系の事例も解説してあげるといいのではないかと思います。

それから、これは今更なのか、前から言われているのか分らないですが、「市街地整備」の項目の中にエリアマネジメントが入っていますが、やはり整備だけではないところがあるので「市街地形成」なのか言葉尻が気になりました。

それから、p. 13に「さいたま新都心駅」のエリアマネジメントの写真がありますが、多分この写真と実験ということだけでは、イベントと実験の区別がつきにくいと思いましたので、キャプションを実験ということではなく、どういうことをやっているのか言葉を加えるか、あるいはもう少し実験らしい写真に変えたほうが良いと思いました。

p. 29は、項目別には書いてあるので、難しいのかもしれませんが、「災害時に一時的に避難できるオープンスペース」を確保することは防災にとって、とても重要ですが、併せて、それを日常的に市民

が愛着の持てるような場所にしていくかということがセットで大事だと思います。最近、防災とプレイスメイキングのような視点もあるので、検討いただくといいと思います。この辺りのイラストに関しては、非常に素晴らしいと思いますが、この「3-1」というのが何を指しているかぱっと見て分かりにくいので、指針何とか、取組何とか、と補足を入れると分かりやすいと思います。

p. 68 辺りに、「居心地良く歩きたくなるまち」やウォーカーブルの話がありますが、平易に日本語で書いていくと埋もれやすいのではないかと。国交省が推進していることに触れることも大事だと思います。本来的に、ウォーカービリティというのは、土地利用の多様性や人口密度、アクセシビリティみたいなことでとても重要ですので、今ここに4点くらい箇条書きされていますが、論点を整理しながら項目を記述されるといいのではないかと思います。今は文章全部を読まないで内容が理解できない感じですので、そのあたりが気になりました。あと、下の事例写真は「丸の内」が2つ続いているところが、やや葛飾のイメージと合うかなというか、距離が遠く感じてしまうかもしれないので、商店街や既成市街地の事例などがあると親近感が湧くのではないかと思います。

p. 113 に、用語集を付けていただいているのはとてもありがたいですが、これは多分 PDF や Web でも見られるようになると思いますので、例えば、言葉の定義だけでは理解しにくい制度系などは、国などのサイトに飛べるようにすると、もう少し知りたい人には検索性が上がるのではないかと思います。

事務局（課長）：1点目のエリアマネジメントの取組事例は、住宅系の事例も挙げたほうがということについては、今後、コラムを作っていくにあたって、住宅系の事例についても探して入れていきたいと思います。

また、エリアマネジメントの関係で市街地形成という話が出てきましたが、委員からもご意見を頂いていましたので事務局でも検討して、p. 63 の(2)①のタイトルを「持続可能な街づくりを実現する市街地の開発と形成」に変えさせていただいたところです。

p. 13 の「さいたま新都心駅」の写真については、見た目は何をやっているのか分からないということもあると思いますので、説明書きなどを入れて工夫したいと思います。

p. 29 の「災害時に一時的に避難できるオープンスペース」は、当然、平時も使える場所なので、説明書きで、平時にはこういう使い方みたいなことを分かりやすくお伝えできるように、ここも工夫をしたいと考えています。また、キャプションの、例えば「3-1②」など、何なのか分かりにくいのではないかとご指摘がありましたが、p. 29 の中段付近に「キャプション表示の見方」として、関連する分野別方針 No. と主な項目の No. ということで記載させていただいたところです。

p. 67、68 の「居心地良く歩きたくなるまち」の4点のポツについて、少し論点を整理しながら、というお話ですが、ここは委員のご意見を詳しく聞かせていただいて、アドバイスを頂きながら、どういう視点でまとめていくといいのか、というところのご意見を頂ければと思います。

また、p. 68 の「丸の内」の写真が2枚あるところは、もう少し葛飾に近い写真に差し替えて、入れていければと思います。

最後に p. 113 の用語集については、これは先の話になりますが、今、委員にお話しいただいた、そういう制度に関係するウェブサイトに乗ることができるかどうか、検討していきたいと思います。

委員長：ほかに、ありますか。よろしいでしょうか。

では、全体構想等案については以上ということで、今後どうぞよろしくお願いいたします。

次に地域別構想案についてご意見、ご質問等を伺いたいと思います。

委員：地域別構想案について気付いた点ですが、p. 16 の整備方針図に、赤い点線の囲いで「良好な住環境の形成」エリアという指定と、黄色の塗りつぶしで「公共交通の充実に向けて検討する地域」という指定がありますが、何か根拠があってこの辺をそういうエリアに指定したのでしょうか。

事務局（課長）：1 点目の、赤い点線の「良好な住環境の形成」は、地域別勉強会の中で出た意見を反映して示したものです。恐らく地域の方々が、特に住みよいか、今の環境を維持・向上していきたいという思いがあったのではないかと考えています。

もう 1 点の黄色の「公共交通の充実に向けて検討する地域」については、先ほど資料 6 でも触れましたように、庁内調整を図る中で、「公共交通の充実に向けて検討する地域」を表示してほしいということで、こちらに示させていただきました。もともとは、区で作っている公共交通の整備方針で示されている地域で、主要なバス路線などが少ない地域を表示させていただいています。

委員：私は金町に住んでいて、全体構想等案が非常にわくわくするような感じになっていたのですが、地域別構想案になってきて、そのわくわく感が少しどこかに行ってしまった感じがしています。

例えば、交通網の整備でいくと、地域別構想案の p. 15（2）に「③駅周辺における交通結節点としての機能強化や幹線道路網の整備」とあり、南北交通、バス路線の新設、道路の拡幅などがありますが、全体構想等案ではフィーダー交通やサイクルポートなどいろいろな整備がうたわれていました。p. 18 にも少し書いてありますが、具体的には、バスを増やすことと道路が広がるくらいのかな、という感じで、あまりピンとこない。もう少し、何かないのかなという感じがしたのですが、いかがでしょうか。

事務局（課長）：今の交通の話は、例えば電動キックボードなどの様々な交通手段を検討していくということは、葛飾区内全体で共通している問題で、それについては全体構想に記載する形で整理させていただいています。地域別構想については、特に地域の中で具体的にやっていくことについて記載しているという整理をさせていただいて、ここに書いていないからやらないという話ではなく、全体に共通するものは全体構想で見ていただくという構成としています。

委員長：ほかに、ありますか。委員、どうぞ。

委員：p. 13, 14 に地域の特徴を整理していただき、非常に分かりやすくなっていると思います。その中で、p. 21 の「柴又・高砂地域」の、特に柴又はここに書いてあるとおりで歴史的建造物等を中心にしたまちづくりはそのとおりでありますが、これによって来訪者に来てほしいという、私のイメージでは、葛飾の中ではここが一番、外から人を呼び込める所と思っているので、少し強調して書いてほしいという感じがしています。どうしても、区民のためのまちづくりということになりますが、やはり外からも来てほしいということが、どこかにしっかりあったほうが良いと思います。そういう意味では、やはり柴又というのは一番のポイントの 1 つかと思っていますので、そこを強調いただければと思っています。そうすると、将来像の中にそういう内容のことも書いてあっていいのではないかと感じがあったので、先ほどの全体像の中でも、柴又辺りは外から人が呼べるという感じがあるのではないかと見ていました。これが 1 点です。

2 点目は、つい先日も新金線旅客化の会議がありましたので、新金線は少し気になっているのですが、新金線の沿線のそれぞれの地区に文言が入っています。例えば、p. 18④には金町エリアの話があ

って、金町の拠点性を高めることと連動してというか、そういうイメージの言葉が④の中に入ってくるといいなと思っています。一方で柴又・高砂は、p. 24 の(4) ④の新金線のところに同じ文言が入っていますが、どちらかという不便地域の解消ではないかと思っています。新小岩も拠点性へのアクセスだと思うので、その辺の違いをもう少し書き込んでもらえるといいのではないかと思います。見えていました。

事務局（課長）：1点目の、p. 21 の柴又については、来訪者の方々にも、人を呼び込むというところが読み込めるようにということです、「区民も来訪者も」と文言を付け加えられるかどうか、検討させていただきたいと思います。

新金線については、それぞれの地域の中で、新金線の果たす役割が少し違うのではないかという話で、確かにそのとおりで、金町や新小岩は拠点性の向上やアクセス、柴又・高砂地域であれば、不便地域の解消というところがあるかと思っていますので、文言を加えられるか検討いたします。

委員長：ほかに、ないでしょうか。リモートの委員の方々は、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、委員、どうぞ。

委員：私は奥戸に住んでいて、地域別勉強会にも全部参加しました。集まった人間は、かなり真剣に自分の地域の問題点や希望などを、お金のことを考えずに勝手に出し合いました。

現行の都市計画マスタープランでも、ある程度同じような地域別構想が出されています。今回の検討と中身が同じところもあれば、新しいところもあって、区民としては、どういう経過になっているのか、うまくできているのか、できていないのかが気になります。

区民は、この計画案に書かれたことは実行してもらえると感じるわけで、やりっぱなし、書きっぱなしではなく、これはこうなっているという結果まで書いてほしいと思いました。

事務局（課長）：これまでの都市マスの進捗状況については、全体構想の p. 15 から、現行の都市マスで掲げた内容の進捗状況を掲載してきたところです。今後のまちづくりについても、都市マスに書かれたことがどうなっていくのか、進捗状況を見ながら進めていきたいと考えていて、全体構想の実現化方策の p. 109、110 に、「3 計画のフォローアップ」ということで一定の指標を作り、それを現状値や目標値に対して、今どうなっているのかということをしかりと把握しながら、実際には p. 111 で示していますように、5年後くらいに1回検証するなどして、進捗状況を確認していきたいと思っています。また、その進捗状況を、しっかりと区民の皆様にもお知らせして、一緒にまちづくりができるよう進めていきたいと考えています。

委員長：ほかに、どなたかないでしょうか。よろしいでしょうか。

地域別構想は、ご承知のとおり地域別勉強会で、随分一生懸命、検討を重ねてまとめられました。今回、このようにまとめて報告されるのは初めての機会です。そのような趣旨で何かご意見があれば、忌憚なく言っていただければと思います。

行政委員から、これまでの検討の中でこういうところに苦労した、今後、こういうところに注目していきたいなど、この際、ご紹介いただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員：先ほど、委員も委員もおっしゃっていましたが、地域別構想は、少し薄いイメージがあるのかもしれない、しかし、全部入れると分かりづらいいということもあります。どうするかということで、

私も事務局も考えて、この辺にしておこうということになりました。それが本当にいいのかどうか分からなかったのも、その辺の意見をもう少し聞かせていただければと思います。

委員長：確かに、全体構想では、かなり充実した記載がされています。地域別構想になると、かなり地域的、具体的な形になりますので、全体構想で掲げたものをさらにそこで記述していくと、ダブリ感も出てきますし分量的にもかなりのものになってくると思います。今、委員がおっしゃったように、全体を見通してのバランスもあるということで、地域別構想だけを見ると少し薄い印象になってしまうかもしれないけれども、全体構想とセットで見ただけだとありがたいという趣旨だと思います。我々見る側も、そういう趣旨と承知した上で見ていくことが、今後必要になるかもしれないです。

委員：もう1つ、資料2の2枚目の進捗を見れば分かりますが、今まで地域別勉強会を相当重ねてきて、地域がこの地域別構想を作ってきています。先ほど、委員からもお話がありましたが、例えば、なぜ「良好な住環境の形成」の丸がここに付いているのかは、確かにここを見ただけでは分からないので、地域でこういうご意見が出たということが分かるようにしておくといいかもしれません。

今回の地域別構想は、地域が作ったというところが目玉なので、それをもう少しクローズアップしてもいいかもしれません。

事務局（課長）：今、地域別勉強会で出てきた主なご意見の要点をまとめたものを、都市マスの別冊や参考資料という形で載せることを考えています。やはり、残していかないと良くないと思っていますので、そこは少し考えているところです。

委員長：あと、司会の立場で、意見というほどの意見でもないですが、私からも少し思ったところを申し上げたいと思います。

地域別の名称で、「水元・金町・新宿地域」や「亀有・小菅・堀切・お花茶屋地域」などと、地名を並べて地区の名称にしていますが、これを一言で言おうとすると、言いづらい印象があります。それぞれ特有の地域なので、それを単なる数字で呼ぶわけにもいかないと思うのですが、地名をつなげてその地域の名前にしているのも、その地域を呼ぶときに早口言葉のようになってしまいます。どのように呼べば分かりやすいのか、そういうことも考えてはどうでしょうか。

先ほどの事務局説明の中では、区北東部の「水元・金町・新宿地域」ではとか、あと、区部中心部から西部にかけての「青戸・立石・四つ木地域」ではという言い方をされていたので、方位を呼び名に絡めると、一言で地域を呼べるのではないのでしょうか。例えば、東部地域と言うと柴又・高砂地域というのが分かるという、もしそういう工夫ができたらいいかなと少し思いましたがいかがでしょうか。

事務局（課長）：事務局もそう思い、地域別勉強会で地域の名称についてお話させていただきました。例えば、西部地域とか東部地域とか、そういう呼び名があってもいいのではないかなど、いろいろお話をさせていただいて、先ほど南綾瀬が小菅に変わったのもその時のことでした。そういう議論をした中で、やはりこれじゃないか、という感じになった結果が、現在の地域名称です。

委員長：それはよく分かります。都市マス地域別構想における正式な地域名称はそれでいいと思うのですが、括弧書きで東部とか西部などが後ろにあると、便宜的に呼ぶときにいいのではないかという印象がありましたので、ご検討いただければと思います。

皆さん、ほかにいかがでしょうか。委員、お願いします。

委員：p.24（5）に「柴又帝釈天や参道、矢切の渡し」と、ここに矢切の渡しが出てきますが、ふっと見てくると江戸川のことをほとんど書いていないという感じがします。p.22の地図に江戸川は入っているけれども、江戸川をどういうふうに活用していくかというところはここにもない。水元はありますが、そこから下がってきた辺りの江戸川の利用や河川敷の利用・活用というところがあまり書かれていないと思いました。江戸川については、全体構想でもあまり意識していなかったのですが、何かあったのでしょうか。

事務局（課長）：河川自体は、区全体の話になりますので、基本的には全体構想のp.84、「③魅力ある川への整備」ということで、荒川、江戸川、中川、新中川の話が、共通してしまいましたが、河川の水辺空間の活用や魅力的な親水空間を整備していくことで考えています。

地域別構想については、地域別勉強会の中で出てきた江戸川についてのご意見を記載しているという分け方にしています。

委員：分かりました。確かに荒川もありますね。この中に、中川、新中川が入っているので抜けている感じがしてしまいましたが、分かりました。

委員長：それでは、時間もだいぶ過ぎてきましたので、具体的な意見は以上とさせていただきたいと思います。それでは、本日とりまとめました全体構想等案と、初めて検討しました地域別構想案について、事務局でさらに整合・調整を図っていただき、次回は両者をセットにした都市マスの素案として、引き続き検討を進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここで、傍聴の方には退出していただきたいと思います。

（2）その他

委員長：それでは最後に、事務局から、連絡事項等があればお願いします。

事務局（課長）：本日は長時間にわたり、多数のご意見をいただきありがとうございました。

次回の策定委員会の日程は、2月10日金曜日に開催したいと考えています。後日、改めて事務局より、正式な通知をお送りしますので、よろしくお願いいたします。

委員長：本日の議事は全て終了しました。以上で、本日の策定委員会を閉会いたします。皆さん、ありがとうございました。

以上